

努力した経験は必ず役に立つ

北日本をはじめ全国各地では大雪でたいへんな地域があるなど、厳しい寒さが続いた2月でしたが、今週は春らしい暖かな日が続きました。さて、学校では2月12日(水)～13日(木)に、3年生は義務教育最後の定期テスト(学年末テスト)でした。また、2月25日(火)～26日(水)は、1, 2年生が今年度最後の定期テスト(学年末テスト)でした。これで本年度の定期テストが終了しました。みなさんにとっては、辛抱(しんぼう)の日々が続きましたね。さて、「辛抱(しんぼう)」と「我慢(がまん)」の違いって知っていますか？

「辛抱(しんぼう)」とは・・・「未来につながる苦しい時期」

「我慢(がまん)」とは・・・「自分ではどうしようもないことで、未来につながらない停滞の時期」

だから、つらいときは、我慢ではなく、「辛抱」していると思えばいいのだそうです。「辛抱は意志の問題」、「我慢は気分の領域」・・・フランスの哲学者の教えだそうです。問題は、試験勉強がつらいときに、どうやって頭を切り替えて前進するかということです。「・・・将来の希望には迷いや不安があるけど、それよりもまず、努力が続かない」この言葉は、ある高校生のものです。将来の夢・希望・願望などの抽象的なことに迷い、不安を持つことは多いと思います。でも、目の前にある「努力」という具体的な行動を続けることこそが大切なのです。何かと言い訳ばかりをして、行動することをためらってでは、どこにもたどり着くことができません。踏み出さない限り、バージョンアップはありません。辛抱し、修行をし、成長することができます。辛抱の後には素晴らしい未来が待っていると信じましょう。学年末テストが終わっても公立高校後期入試を受検する3年生は気が抜けません。でも、あと少し、もうひとふんばりです。次のような文章を見つけました。是非とも親子で読んでいただければと思います。



今回は、入試を直前に控えた子どもたちを送り出す、このタイミングだからこそお伝えしたいことを述べたいと思います。

受験に向かう日々には、楽しいことやうれしいこともあります。それ以上に苦しいことやつらいことが多くなるものです。特に、思い通りにいかない、分からないといったマイナスの状況に対する心の耐性が育っていないとごまかしや逃げ出したりしたくなることも多いものです。

それは、子どもの自然な感情でしょう。だからこそ受験を通じて、そのような不穏感情に向き合う経験を積んでいくことは成長していくための訓練であり、そうすることで心が鍛えられていきます。自分のやりたいことしかし、自分にとって都合の悪い状況は受け入れないといった姿勢や考え方は、大人になるに従って、どんどん通用しなくなります。子どもたちは受験を通じて、大人になるために必要不可欠な「人としての強さ」を身に付けているのです。

また、人は誰しも、楽しんで良い結果を得たいものです。子どもたちのなかには、まだ視野が狭く、甘い考えを持ってしまいがちの子もいますから、まさにそう考えるものです。しかし受験は、そのような考えが全く通用しないことを強く実感させられる経験になります。手を挙げればその分、必ず後で苦しい状況が生まれます。

しんどくても努力して頑張った末に、小さくても良い結果を出すことができれば、喜びや達成感を得られます。そういったことを通じて「努力の大切さ」を学んでいくのだと思います。

何を成し遂げるにも、「努力する力」が絶対に必要です。「努力する力」こそが、人生を切りひらく力になります。受験という機会はそれを身に付ける貴重なチャンスなのです。

しかし、受験する以上、誰もが第1志望校合格の栄冠を勝ち取るとは限りません。しかし、受験を通じて頑張り抜いた子どもたちは、結果のいかに問わず、その先の人生を生きていく上での糧となる大切なものを、必ず身に付けるのです。絶対に無駄な経験ではありません。子どもたちには、胸を張り、自信を持って次の一步を踏み出してほしいと願っております。(著・黒田耕平)

3月(フィナーレ)を迎える!

3月(フィナーレ)を迎えた!
一年が流れて、それぞれのクラスもフィナーレを迎える
それぞれのパートで それぞれの声をあわせ
どれだけの素晴らしいハーモニーを創りえたか
ときには不協和音に悩んだ
ときにはテンポが乱れた ときには雑音さえ入るなど
喜怒哀楽のドラマが 3月で締めくくられようとしている
願いをこめて敷中生に呼びかけたい
フィナーレを美しく! フィナーレを美しく飾れ!



『有終の美を飾る』という言葉があります。「有終の美」の意味は、「ものごとを最後まで立派にやり遂げて成果を上げる」ということです。「有終」とは、終わりを全うするという意味です。つまり「有終の美」とは、「最後までやり遂げた立派で美しい終わり」ということです。いよいよ3月に突入します。本年度もついにフィナーレであり、クライマックスです。学校・学年・学級としての有終の美、各自の有終の美を飾るために、「最後までやり遂げた」「やりきった」と思えるような締めくくりにしましょう。

入試直前の母の気持ち～保護者の手紙から～

入試直前と言えば、受験生にとっては本当にデリケートな時期です。しかし、我が子を支える親にとっても、それは同じこと……。下の文章は、私が学級担任をしていたとき、生徒の保護者全員からクラスの生徒全員へ応援の手紙を書いていただいたことがあり、そこから抜き出したものです。いつの時代も「受験生の親」の心情は同じです。親子で一緒に、冬を乗り越え春に向かって歩み続けていることが実感できます。

(保護者の手紙から)

月日が経つのは早いですね。ため息つくことが多いこの頃、志望校を決定し、みなさんは目標に向かって一步一步近づいていますか?今が一番難しいとき、考えるときだと思います。大いに頭をフル回転させて、心身共に成長してください。パワーのある3-1のみなさんでしたら、きっと願いは叶うはず……。

最近、考えることがあります。よく「頭のいい子だね」という人がいますが、これは、何ををもって「頭のいい」子か?勉強ができる人。礼儀正しい人。言葉づかい、機転がきく、要領がいい……難しい。また、誰に評価されるのか?学校の先生、母親、父親、兄弟、はたまた評論家……。これも難しい。結局、人それぞれ、いろいろな解釈があるということですね。こんなことを考えるだけで、人とのかわりって大切だと感じます。

私自身思うことは、「頭のいい子=自分で判断できて、自分の判断で選択し、自分の選択に責任を持つこと」だと思います。これって、まったく甘えが通用しないのです。でも、だからこそ将来にわたって、逆境にあったときでも、それをチャンスととらえ、立ち上がることがきっとできるようになります。結局、人生は、協力者はいませんが、最終的には、自分にすべての責任がふりかかってくるのです。だから、「自立」することが、本人のためになると思います。長々と論文みたいな感じになってしまいましたが、今は親も子もギリギリのところで見つめたり、見つめ直したりしているときだと思います。みなさんも、うれしい春を迎えられるように、強い信念をもち、力強く前進してください。3年生全員に、素晴らしい春が来るように願っています。